

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田85番地		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3070104280-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-1 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様中心に考え行動し、できる限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日をご過ごして頂くために健康管理に努めている。そのため、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられるようにしている。なお、受診する際の送迎等については、車いす移動車を導入しており、できるだけ家族様に負担をかけない様に配慮している。

1、常に入居者様を中心にいかにかにして安心した快適な毎日をご過ごして頂く事ができているか
 2、健康管理は重要で些細な事でも見逃さないよう十分管理し、常にベストな体調を維持しているか
 3、家族様には安心してお預け頂き、家族様の負担軽減につながり、お役に立つことができているか
 この三つのスローガンを基に行動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当初からの理念を大切にしながら、地域の中で、日常の当たり前の暮らしが出来るよう職員が一つになって、入居者一人ひとりの暮らしを守っている事業所である。日常の暮らしを大切にしながら、新しいことにチャレンジする気持ちをも忘れず、システム導入等に取り組み、職員の働く環境の改善にも目を向け、入居者支援にも向上が見られるように進んでいる。

玄関先や建物の周囲を花々で囲み、収穫の出来る作物も植える等、季節を感じられる「普通」の暮らしを営んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を各棟のホールに掲示し、職員会議等で周知、確認している。 居室の大きな窓から見える自然、景色についてお話する中で季節の移ろいを感じながらそれぞれが自由に穏やかに暮らしていけるような住環境に工夫、配慮している。 風通しの良い中庭の草木を見てお散歩していただくことで気分転換され、地域の方々と何気ない、気さくな会話ができるよう積極的にアプローチし、いつでも外気に触れられるよう努めている。	理念の共有は常に行い、忘れることのない実践を行っている。 日々変化する入居者が、いかに安心して落ち着いて暮らすことができるかを考えながら、取り組む姿が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動や回覧板の受け渡しに参加させていただいている。 コロナ感染に気を配りながら音楽会を再開し、地域の方々をお招きするなど、少しずつ地域交流の場を設けている。 地域の方々より季節の野菜や果物を頂くなど、頻繁にお話させていただき機会があり、施設の運営についても相談させていただき助言を頂いている。	変わらず、地域とのつながりを大切にしている。自治会活動の中での交流、地域の方々との交流、また、退所された方々との交流といった一日、二日といった短期間では成し得ない「繋がり」と続けている。その繋がりが、利用されている入居者の日々の暮らしへと繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々や老人クラブの方々との関わりを深めている。 コロナ禍となり現在は集まりを控えているが、回覧板やお野菜等を届けてくださる際に、高齢のご家族様のご相談等して下さったり、その場で支援の方法をお話させていただくことがある。 今後は、コロナ禍以前のように地域の方々に桜の花見会や夏祭りにご参加していただき、認知症の方の思いや関わり方などにご理解、ご協力頂けるよう検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域にお住まいの方、自治会の方、民生委員、ご家族様、入居者様、地域包括センターの方、皆様のご協力を得て定期的に開催し、ホームでの日々の暮らしの事や活動状況、消防訓練研修など、ホームの取り組みをお話させていただいている。 皆様からのご意見を都度頂いており、会議の内容がマンネリ化せず有意義な時間になるように努めている。 コロナ禍が落ち着いてきて以降、地域の方々からも「参加したい」と言っただく事も多く、また緊急事態発生時等、災害などの時には連絡網を作成して下さったり、水道が止まった際には井戸水を提供して下さる等、運営推進会議を通して様々な協力を申し出て下さっている。	運営推進会議を開催する際、消防訓練を実施したり、ミニ研修会を実施する等の工夫がみられる。 その都度、様々な人の意見を聞き、それを取り入れ、「みんなのグループホーム」としての機能を果たそうと努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍以前は各地域包括センターの方々とは連携させて頂き、包括主催の研修会などにも参加させて頂いたり、職員の意識向上に繋げさせて頂いていた。 包括主催の相談会など、お知らせが届いた場合(認知症相談会他)など地域の皆様にもお知らせさせて頂いたり、入居者様のご家族様の相談事など、解決に向けて各包括の方々に繋げさせて頂いている。	地域包括支援センターとの連携をホームや入居者に結び付けるだけでなく、ご家族や近隣の方々にも繋がるようにする工夫が見られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員全体の研修を行い、ホールでの掲示など徹底、身体拘束適正化委員会を設置し、人権擁護推進委員会でも身体拘束について話し合っている。 職員同士で話し合う機会も多く、風通しの良い環境でのケア提供を心がけ、人権を保護しつつ介護を行うという基本姿勢の下で職員が一つになり取り組むべき課題であると職員全体で認識している。	身体拘束をしない(現在、1件も無し)だけでなく、身体拘束等の意味等知識を職員一人ひとりが理解し実践出来るように会議や研修会を通して取り組んでいる姿が見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が心にゆとりをもって入居者様に接する事ができるよう、介護負担を抱え込み過ぎないよう管理者が率先し、職員同士でうまくフォローし合える職場環境作りに取り組んでいる。 虐待防止策として、認知症について再認識できるよう定期的に勉強会を開催し、職員間で様々な対応を話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護推進委員会を設置し、定期的に勉強会を開催し、権利擁護について学んでいる。 認知症高齢者の人権を守りながら、入居者様個々が穏やかで自分らしい暮らしを送れるよう、職員同士が意見を出し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約また改定等の際には、その都度ご家族様に解り易いよう丁寧に説明している。 入居後に予測されるリスクや心身の低下等についても十分に説明させて頂き、入居者様やご家族様の不安や疑問点についても質問し易いよう環境に配慮している。 メールアドレスを整備して、ご家族様に対してはいつでもご質問、ご意見等にお答えできるよう努め、ご理解、ご納得頂いている。 また地域包括センターにも繋いで相談に応じて頂くことにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限の緩和により、これまで以前のようにご家族様との時間を確保し、入居者様、ご家族様に安心していただけるよう取り組んでいる。 引き続き、毎月の手紙送付や電話対応、メールでのやり取りなどを用いて入居者様、ご家族様よりご意見、ご要望、ご質問等をいつでも頂けるよう配慮しており、ご意見、ご要望に対しては運営に反映させて頂けるよう努めている。	入居者や家族が意見を言いやすい雰囲気や日常からつくれるよう、声掛けだけでなく、便り等にも大きな工夫がみられる。また、意見を取り入れた場合の伝え方にも工夫が見られ、家族の方々も安心している様子がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者がホールに出て現場職員のフォローをすることで関係作りが出来ており、気軽に相談、意見や提案をしやすい職場環境作りを心がけている。 管理者に気軽に相談できるようメールや、グループLINEも頻繁に稼働しており、意見ノートや申し送りの中でも意見交換できるようになっている。 管理者は職員からの意見や質問には、あいまいにせずすぐに返答するなどし、毎月の職員会議でも発言しやすい雰囲気作りを努めている。	職員の声をいかに聴くかといった取り組みをSNS等の活用も行い、小さな意見や細かい意見等も見落としたり無駄にしない工夫が見られる。 この1年の間には、その意見を反映させる大きな取り組みも行い、実際にその取り組みは大きな実を結んでいる。(職員からシステム導入の意見があり、導入を実施。今までの手書き入力から、パソコンやパッド利用により、格段に業務の効率化が図られた。)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、実績、努力等を考慮し、特別賞与など整備、提供している。 研修の受講や資格習得に向けての希望があれば、勤務の調整、受講費用の負担など職員個々の希望に添えるよう努めている。 職員と管理者は日頃からコミュニケーションを図り、管理者は代表者にその思いや意見を伝えていけるよう努めている。 小さな子どもがいる職員や年配の職員も数人在籍しており、就労時間や休みの希望等ある場合は社労士と相談しながら、できる限り希望に添えるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講や資格取得の際は負担がないように勤務の調整を行っている。 管理者と職員は日頃よりコミュニケーションを図り、職員個々の希望や要望を日常会話の中からもくみ取れるよう配慮し、個々が向上心を持って働ける環境作りを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域資源の利用により地域文化祭等の参加団体と同業者とも交流がある。 また必要な機器の購入を図りネットワーク作りを支援している。 外部の勉強会や研修会に参加する際には、必要な交通費諸費用を支給するなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査では、入居者様やご家族様の希望・要望に対応できるよう、しっかりと情報収集を行い、不安や疑問がないように十分に耳を傾け、配慮している。 また、各関係事業者や主治医からの情報を含め、アセスメントを行っている。 コロナ禍以前は、信頼関係を構築する上で入居者様、ご家族様の不安軽減のため、入居前に自施設の食事会やイベントにもご参加いただき、直に施設の雰囲気を感じて頂けるよう努めていたので、今後少しずつ再開していけるよう検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学に来ていただく事で、事前に不安な事や希望・要望をお聞きし、より良いサービスにつながるよう取り組んでいる。 ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、ご意見やご要望を話しやすい雰囲気作りに努め、入居後はお電話やメールでいつでもご質問、ご意見など頂戴させていただける体制であることを説明している。 毎月のお手紙では入居者様の写真とともに日頃の様子や医療機関の受診内容について詳細に記載して送らせていただいております。いつでも気軽にご連絡いただけるようお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、入居者様、ご家族様が求められているサービスや希望・要望について十分に話し合える機会を設けている。 不安な点や疑問をしっかりとお聞きし、その後に新たな希望・要望、ご質問等があればいつでもお電話くださるよう伝えている。 その上で必要と考えられるサービス利用についてはその都度話し合いの機会をもち、また業務中でも気になることがあれば職員同士で話し合い、ケアマネジャーに相談し、入居者様とご家族様の意向をしっかりと把握した上で対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を中心に考え、日々の生活の中での表情や会話から、体調や状態を把握し、思いをくみ取れるよう、職員間で入居者様個々のご様子について毎日話し合っている。 入居者様の能力に応じて負担にならない程度で家事等に参加して頂けるよう努めており、入居者様が話しやすいよう、居室でお話する機会を設け、家事が負担となっていないかを確認しつつ、ご意見や不安な事がないか等、ゆっくり伺う時間を持つよう取り組んでいる。 またホームには小さな畑があり、農業に詳しい入居者様も多く、アドバイスを頂きながら一緒に季節に合わせた野菜を育てており、職員が入居者様から学ばせていただく事も多くあり、良い関係づくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	若干の面会制限はあるものの柔軟に対応させていただき、また毎月の写真付きのお手紙や電話対応を通じて月に1回以上は入居者様の状態や近況をご報告している。 ご家族様の相談事についても広く耳を傾けさせて頂くことで信頼関係を深め、その中から頂くご意見を反映させていく事により、サービスの向上を目指している。 職員とご家族様とが話し合える関係を築くことで、入居者様にとってより良い生活環境が提供できるよう努めている。 労いや感謝のお言葉を下さるご家族様も多く、職員のやりがいとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	引き続き若干の制限はあるものの、面会希望には柔軟に対応を行い、入居者様、ご家族様に安心していただけるよう努めている。 希望時には事務所やホールの電話の使用もいただいている。	家族だけでなく、かかりつけ医等もどれほど遠距離であっても出来るだけ利用出来るように調整し取り組んでいる。関係性を保つ工夫が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々のADL、興味のある事等を把握し、職員全体で共有、把握している。 個々の希望や性格等を考慮し、ホールでの着席場所を考え、入居者様同士で会話がしやすい様に配慮している。 現在はコロナ感染に配慮し、入居者様同士がどこにいても会話を楽しめるよう可動式のパーテーションを設置し、必要に応じて移動させている。 また入居者様同士が互いに苦手な部分を協力し、助け合えるような関係作りに努め、家族といる様なアットホームな雰囲気作りにつとめている。 お誕生日会では入居者様全員でお祝いさせていただく等、利用者様同士が関わりあえるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、適時に連絡を取ったり、お手紙のやり取り等行っており、ご家族様からは季節の野菜や果物をいただくなど、退所後であっても築いた信頼関係は継続している。 転所先の職員からも、ご本人様の嗜好等を相談されることもあり、お電話でご本人様とお話させていただく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴は職員間で共有、把握に努め、日々のふるまい、言葉や表情などを常に観察させて頂きながら小さな変化を見落とさないよう、一人ひとりの思いや暮らしの希望をくみ取れるよう努めている。 また入居者様が思い出や希望をお話下さる際は他職員に声をかけ、気のゆくまでお話し下さるよう、職員全体がそれを優先として動いている。 日々の暮らしの中で職員が得た情報はご家族様に伝え、ご家族様と話し合いながら、入居様に寄り添い、よりニーズを引き出し、職員全体で応えていけるよう、信頼関係作りにも努めている。	入居者の声を一つも取りこぼさないといった気持ちが管理者だけでなく職員からも伝わる。また、今回のシステム導入により、日常の入居者との会話や触れ合いも以前よりも多く取れるようになり、実際的に把握することに力を注げる体制となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを日頃から密に図ることで、過去の生活歴や新たな情報の収集を継続して行っている。また入居者様から得た情報は職員間で共有し、会議やカンファレンス時に話し合っている。 その情報を活かし、より良い支援過程の展開につなげ、従来の生活に近づけるような個別援助に努めている。 また、以前に受けていたサービスがある場合はその担当者にも情報を提供してもらえよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回以上のバイタルチェックを行い、個々の平均値を把握するよう努め、特に体調不良の方や身体機能が低下してきている高齢の入居者様等は頻回にバイタルチェックを行い、些細な変化も見逃さないよう取り組んでいる。 2023年9月より記録業務を電子化し、バイタル値、摂取量等全てグラフ化することが可能となり、体調変化により早く気づけるようになった。 また心身に対する支援については主治医の指示、指導の下行っている。 入居者様個々のペースで生活出来る様な環境作りに努めており、自ら考えて決定できるような質問を心がけ、入居者様自身が行動選択できるよう努めている。 またご本人の思いを尊重し、プライバシー保護にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>モニタリングの際には現場職員の気付きやご本人様の様子をしっかりとみ取り、介護計画へ反映させるよう努めている。 定期的に入居者様、ご家族様の希望・要望を伺い、一人ひとりの課題について職員会議やカンファレンスで話し合い、より良い支援の提供、支援過程が行えるよう計画作成している。 ご家族様とは電話等にて希望・要望をお聞きしながら、今後のサービス内容について話し合っている。</p> <p>関係職種とも密に連携を図り、都度のモニタリングやヒヤリハット事例検討会など実施し、現状に即し、統一したケアの実践に努め、職員や関係職種の方々の意見、アイデアを反映しながら状況に応じた介護計画を作成している。</p>	システム導入により、入居者の状態だけでなく、考えや思い等にも深く触れることが出来るようになり、また、家族等との繋がりがからもチームでの計画への結びへとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>個人記録や申し送り、日常生活の状況は細かく記録し、いつ誰がみても入居者様の状態が把握できるよう努めている。 職員間で情報を共有し全体で把握し、カンファレンス等の話し合いの時間を設け、より良いサービスの提供ができるよう実践に繋げている。</p>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>日頃より入居者様、ご家族様の希望・要望を傾聴し、運営推進会議内で、包括支援センターと相談を行うなど、他職種等の社会資源も活用しながら多角的な視点で柔軟なサービスの提供に努めている。 また入居者様、ご家族様のご希望に添えるよう人員配置に配慮している。</p> <p>複数の医療機関と連携、連絡を取り定期的な通院や往診を行っており、主治医の指示や指導の下、健康管理に十分な配慮に努めている。 訪問看護師とも連携し、定期的に訪問して頂く機会を設け、普段から些細な事でも相談できる関係を築いている。</p>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>一人ひとりの暮らしを支える地域資源については職員会議や、自治会老人クラブなどと運営推進会議を通して定期的話し合いを行っている。 また身近な地域包括支援センターの職員の方からの協力を得ながら安心、安全な日々の暮らしが出来るよう支援している。 現在はコロナ禍のため活動報告書として送付させて頂き、意見をお聞きしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>連携医療機関での定期的な往診を行い、主治医とは常に連携を怠らず、心身の状態管理、感染症予防、栄養管理指導を受け、職員間で情報共有、把握に努めている。</p> <p>訪問看護師にも月に数回来所して頂き、入居者の状態について意見、提案頂き、また主治医との橋渡しにもご協力を頂き、入居者様、ご家族様の希望・要望に添えるよう取り組んでいる。</p> <p>また、入居時には入居者様・ご家族様の希望や意向を伺っており、ご家族様と一緒に専門医療機関への通院支援もさせていただく事もある。</p>	<p>かかりつけ医との関係性を絶たないという思いを強く持ち、どれだけ遠方であっても、利用者本位を第一に考え、職員全員で工夫をして受診を継続している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月に数回訪問看護に来訪して頂き、普段から密に連携しており、また往診時にも同行され、入居者様個々の生活状況、体調変化等、相談に応じて頂いている。</p> <p>訪問看護師の協力により、夜間の急変、転倒時など緊急時を含み、いつでも連絡が取れるよう体制を整えてくださっており、適時に相談や指導など対応して頂いている。</p> <p>コロナ禍以前は職員からの要望で看護師が講師となり、勉強会を開いて頂いていた。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的な往診や日々の連携を通じて、医師や看護師には入居者様の状態について常に把握して頂いているので、入院時には適切な治療が行われている。そのため比較的早期に退院出来る事が多く、今後の方向性についてももしっかり話し合っている。</p> <p>現在は病院での面会が制限されているため、入院中の入居者様の状態についてはご家族様や医師、看護師より伺い、退院後の対応や注意点について十分に話し合っている。</p> <p>退院後は臨時往診や電話で相談させていただく等、柔軟に対応をさせて頂いている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様、ご家族様の意向を尊重しながら、連携医療機関の主治医からの助言を頂きながら、入居時より想定し得る体調変化等について話し合いの場を設け、十分な御理解を頂ける様になっている。</p> <p>また重度化や終末期における説明を行い、書面での同意や事前意思確認書を用意させていただく事で、緊急時でも入居者様やご家族様が望まれるサービスを統一して提供できるように努めている。</p> <p>重度化に関しての対応については老人保健施設、関係職種との連携することで、入居者様、ご家族様の希望に添えるよう努めている。</p>	<p>入居年数が長い方が多く、状態等の変化や重篤化もある。かかりつけ医との連携や家族の意向、入居者の思いを汲み取りながら、何を大切にするかを考えて、進めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>事故報告書やヒヤリ・ハットの内容の検討を行い、職員会議にて対策を話し合っている。</p> <p>また、急変時・事故対応のマニュアルを作成しており、職員各自対応や手順等を確認しており、日頃から話し合い慌てる事なく迅速に対応できるよう取り組んでいる。</p> <p>記録を電子化したことによって、外からでも記録閲覧が可能となり、管理者は以前よりも早く的確に判断し対応できるようになった。</p> <p>協力医療機関や訪問看護師への緊急連絡先を掲示板に貼付しており、急変時には主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応出来る様に努めている。</p> <p>また、急変時の経過については詳細に個人記録に記載するようになっている。</p> <p>夜間であっても責任者や管理者等はすぐに連絡を取れるよう努めている。</p>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>災害対策マニュアルを作成し、勉強会や災害対策委員会にて定期的に見直し、内容の把握に努め、職員全体が冷静に対応できるよう努めている。また避難方法や消火器位置、避難経路をまとめてホールに掲示している。</p> <p>防災担当者の設置や、消防指導の下、定期的な防災訓練を行い、入居者様だけではなく地域の方々にも参加していただく事で、日頃より緊急時に備えている。</p> <p>火災通報装置や火災通報専用電話機の設置をしており、消火器や設備・備品の日常的な点検のほか、消防用設備の点検の際には専門の業者に使用方法を学び、実際の災害時にも迅速に対応出来るよう対策している。</p> <p>推進会議を通じ地域の方々にも緊急時連絡網を作成していただけており、水道工事のため水の確保のおりには、井戸水を確保して頂くなどご協力を頂いている。</p>	<p>災害等に関しては、近々の事象に学びを得ながら、小さな事業所という枠を超えての準備を行っている。地域との合同訓練等も行い、有事の際は、「お互いに助け合う」という意思疎通が出来ている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>入居者様へのお声がけについて、尊厳遵守に努めるよう研修や会議などで常に意識付けており、接し方や関わり方について意見交換を行い、法令遵守責任者と人権について話し合う事で実践に繋げていけるよう取り組んでいる。</p> <p>記録媒体の取扱いについては個人記録等守秘義務について理解し、情報管理意識をもって十分注意を怠らないよう取り組んでいる。</p>	<p>声掛けだけでなく、部屋の使い方、書類等の扱い方等、職員がしっかりと法律や制度の意味を知った上での取り組みをしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>各入居者様ごとに、理解して頂きやすい言葉や、筆談や写真、ジェスチャー等の様々なコミュニケーション方法を用いている。また入居者様が自ら考え、決定できるような質問を心がけ、自己決定できるよう支援している。</p> <p>記録業務の負担軽減により以前よりも入居者様と共有する時間が増え、思い出話や日常のことを伺う機会が多くなったことで、入居者様の思いを普段の会話等から引き出し、また職員に対して伝えやすい関係作りを心掛けている。また可能な限り希望に応え、日常生活に反映できるよう努めている。</p> <p>また重度化により言葉では伝えられない利用者様に対しては、表情やしぐさ、今までの傾向等からくみ取れるよう、入所時より信頼関係の構築に努めている。</p>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>入居者様の生活リズムを把握し、個々のペースを尊重している。日々の生活の中から入居者様の希望・要望を傾聴し、その日の体調や気持ちに配慮しながら、可能な限り寄り添えるよう配慮し、入居者様のペース、リズムで生活が送れるよう努めている。また入居者様のその日の心身の状態を把握できるよう、職員間でしっかり申し送り、報告、相談合っている。</p>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>訪問美容師と連携し、入居者様ひとり1人の嗜好に応じた髪型やカラーを楽しめるように取り組んでいる。</p> <p>衣類などは、昔から馴染みのある衣類を入居時にご用意して頂き、着用して頂くなど、家庭での生活を継続できるような支援に取り組んでいる。</p> <p>敬老の日や父の日・母の日といった行事の際には下着や靴下、ストールなど様々な物を個々の希望に応じてプレゼントさせて頂き、その中からその日の気分にあったものを自ら選んで頂いている。</p> <p>また職員や地域の方から新品の洋服を頂くこともあり、その際は利用者様ご自身に気に入った洋服を選んでいただき、お渡しさせて頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った季節の行事食や、お誕生日会のメニューなど、嗜好を凝らし、各メニューに合わせた食器を使用する事によって味だけではなく目からも楽しめるよう、工夫している。 職員とともに入居者様が希望するメニューを写真や本を用いながら話し合い、和洋中様々なメニューを献立表に書き出すことで、メニュー考案から召し上がるまでの工程を長く楽しんでいただいている。 また、できるだけご自身で食事を楽しんでいただけるよう、個々に合った食事形態や温度に配慮し、箸やスプーン等の希望も伺いながら様々な提供方法に対応している。 栄養バランスにも工夫しており、主治医から入居時よりも栄養状態が良くなっていると褒めの言葉をいただく事も多い。 感染症対策のため時間をずらして食事をしていただいているが、パーテーションを設置し、1人での食事にならないよう配慮している。	「食事が人に与える影響」ということを十分に理解した上で、献立や調理を行っている。離職者がいないといった利点から、食事作りをホームで10年以上在職の職員が担い、利用者の好み等も分かった上での献立や調理としている。「美味しく食べ過ぎる」といった悩みをいかに解決するかといったことも起きている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の摂取量を記録して、入居者ひとり1人の状態を把握できる様に取り組んでおり、各人が持ちやすいカップや湯呑みを使用している。また、水分の取りにくい人には主治医と相談しながら、食事形態の工夫、トロミ剤、栄養補助飲料の使用や高カロリーゼリー、OS-1の提供も行っている。夜間に水分を飲みたいという要望などにも積極的に取り組み、一度に必要な量の摂取が難しい方には数回に分けて夜間でも摂取できるよう対応させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様ひとり一人の能力に応じた方法での食後の歯磨きや義歯の洗浄、またマウスウォッシュを購入するなど、口腔ケアに力を入れている。 うがいのが難しく飲み込んでしまう方には飲料水でうがいして頂いたり、うがいの必要がない歯磨き粉等を使用して頂いている。 また、個々が使いやすい好みの形のカップを使用して頂くなど工夫し、一日の中で口腔内や義歯が清潔で心地よく過ごして頂けるよう努めている。 夜間も義歯を使用されている方は義歯洗浄剤を用意して使用するなど、昼夜を通して清潔を保持できる様努めている。 また歯科医院とも連携しているため、定期的な健診の他、希望があった際には往診に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄の都度、状態や形状等を記録し、職員全体で情報共有を行い、極力失禁が減るように配慮しながら排泄の言葉かけを行っている。 またその時の体調や様子に応じて排泄の方法を常に考え、配慮している。 排泄中は席を外しご本人が気持ちよく用を足せるよう配慮するなど、自尊心が損なわれないよう努めている。	排泄についても、人の営みの中での重要な事柄として職員全員が捉え、取り組みを行っている。排泄をするという行為だけにとどまらず、気持ちが良いといった感情や排泄に繋がる食物等にも気を配り、進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを記録し職員全体で把握している。一日の水分量や入居者ひとり1人の嗜好に配慮しながら食事内容を工夫している。 またテレビのラジオ体操や腹部マッサージ等を入居者様と一緒にすることによって、便秘の原因解消に努めている。主治医と相談を行いながら、その指導の下、内服薬を細かく調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば日中、午前午後いつでも入浴の出来る環境を整えている。 また入居者様個々のその日の体調や希望に沿って入浴支援を行っており、入浴が困難な場合には足浴、清拭、個々の思いの衣服への更衣など行っている。 職員と一緒に浴室にすることで転倒の不安などを取り除き、安心した入浴時間の提供を心がけている。 菖蒲湯や柚子湯をはじめ、日によって入浴剤や足マットを変える等、季節を感じたり入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。 入浴後には医師の指示の下、処方された保湿剤やご家族様がお持ちくださった保湿剤を使用し、乾燥予防ケアに取り組んでいる。 入浴後には好みの飲み物を飲んでいただき、入浴後もほっとできるような支援に努めている。	入浴についても、ただ清潔にすることにとどまらず、楽しく、落ち着いた入浴を心がけている。季節感のある入浴、体調に合わせた入浴といったその人に合った入浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室にて、洗面やトイレ、エアコンも各居室完備しているため、いつでも自由に休息して頂けるようになっている。 家具や寝具について入居者様の馴染みのあるものをご持参いただく事で、安心してくつろげるよう配慮している。 コロナ感染者が発生した場合においても居室にていつもの空間で過ごして頂ける造りとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<p>主治医、薬剤師、訪問看護師に相談しながら服薬についての理解に取り組んでいる。</p> <p>処方薬について、薬品名、用法用量、作用機序、効能等いつでも確認できるように資料作成しており、職員は常に閲覧し入居者様個々の処方薬を確認、把握できる環境を整えている。各職員が入居者個々の薬の種類や錠数、効能を理解することで、誤薬を防ぐようにしている。</p> <p>また、服薬の際にはきちんと薬が飲み込まれたか必ず口腔内を確認し、服薬漏れがないよう努めている。</p> <p>処方薬は入居者様ごと、服薬時間ごとに分けて管理しており、職員がダブルチェックを行うなど何度も確認するようにし、誤薬を防ぐよう徹底している。</p>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<p>入居者様やご家族様から生活歴や得意なことを伺い、把握することで、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。</p> <p>家事参加などの役割を持っていただくことで、日々の暮らしに張り合いを持ち、また様々なレクリエーションの参加を通して楽しみある毎日を過ごしていただけるように取り組んでいる。</p> <p>天気の良い日には、中庭の畑に行ったり周辺を散歩することで、季節を肌で感じていただき、気分転換ができるように支援している。</p>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<p>入居者様の体調や気分、天候を考慮しながら、気軽にお庭に散歩いただけるようお声がけするなど、外気に触れられる機会を作れるよう無理のない範囲で支援を行っている。</p> <p>周囲の田畑や、庭木の草花の成長を楽しみにされている方も多く、敷地内がアスファルトで整備されている事で車椅子の方でも職員とともに安全にお散歩して頂けている。</p> <p>また、室内の大きな窓からでも庭の花や野菜の成長が楽しめる環境となっている。</p> <p>現在はコロナ感染拡大防止の観点より、人の多い場所への外出は避けているものの、希望があればご家族様との外出や、職員との買い物など、外出の機会をもつ事ができるよう、支援を行っている。</p>	<p>外出については、コロナ禍といったことはあったが、一人ひとりの生活に焦点を当て、通院時の行き帰りに幅を持たせたり、帰りに寄り道をして、調子が良い場合はドライブを兼ねたり、短時間での買い物(パンを買う)をする等、ちょっとした楽しみになるような工夫をしている。</p> <p>全員で何かが出来ないこと(お花見等)が、職員も残念に思っているが、その代替になるような工夫を一人ひとりに実践している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<p>入居者様個々の状態に合わせて、ご家族様と相談の上、管理が可能な方は自己管理していただいている。</p> <p>現在はコロナ禍のため外出の機会は少ないが、外出時にはご自身でお買い物できるよう支援しており、その際にはご家族様にご報告させていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話や携帯電話を含めて、特に規制はなく、入居者様の希望・要望に合わせて、その都度支援している。 手紙を使用される方には、切手やはがきの購入、投函などを職員が代行して行っており、ご家族様や大切なご友人等との関わりを大切にさせていただげるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は皆様に気持ちよく過ごしていただけるよう、毎日掃除、消毒の徹底を行っている。 また共有空間には季節の観葉植物や生花、小物や壁画を飾って四季を感じれるようにしている。 畑だけでなく、室内でも野菜栽培をして利用者様とご一緒に水やりをしてお世話をすることで、日に日に育つ野菜やお花の成長、収穫できることを楽しみにさせていただいている。 壁画飾りは入居者様個々にできることが違うものの、一緒に張り付けるなど各々職員と一緒にさせていただくことで達成感を味わっていただき、季節を感じていただいている。	玄関先や建物の周囲に花や樹を植え、ホーム内にも季節の植物がある。綺麗に咲かせるだけでなく、芽を出し、少しずつ枯れるといった自然の移ろいが見えるようにしており、職員の工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは趣味を楽しまれたり、思い思いにお過ごしいただけるように工夫しており、ゆっくりとくつろげるようにテレビの近くにソファを設置したり、日当たりの良い場所にベンチやイスを設置している。 必要に応じて、家具の配置を変更して、自由に過ごしていただけるように配慮している。 またホールはどこにいても目が届きやすいような設計となっており、安全面に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には入居者様にとって馴染みのある家具や寝具、装飾品を持っていただくことで、家庭での生活が継続できるように支援している。 また全室に大きなコルクボードが設置されており、家族の写真や好きなポスターを飾るなど、その人らしさのある居室となり、居心地よく過ごしていただけるようにしている。 入居者様の状態や希望により、ベッドや家具の位置をいつでも変更して気分転換ができるように努めている。居室には大きな窓が設置されており、外気を感じながら周辺の景色が楽しめるようになっている。	居室には、その人らしい持ち物が置かれており、また、ただ置かれているだけでなく、その持ち物を活用出来たり、いつも手に取ることが出来たりといった日常生活に溶け込んだ「物」であるような工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには段差がなく、壁には手すりを設置しており、移動時の安全配慮を行っている。 また家具などは移動の妨げにならないように気をつけて配置している。 共有トイレや自室のトイレにはL字型の手すりを取り付け、安心して毎日の生活を過ごしていただけるようにしている。 また各居室前には表札を取り付け、ご自分の居室が分かるようにし、表札回りには季節に合わせた装飾を施して季節を感じていただけるような工夫もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容